



東京地区生コンクリート協同組合  
〒103-0027東京都中央区日本橋3丁目2番5号  
電話番号 (03)3271-2181  
URL:https://www.t-namakyō.jp/  
発行責任者 高 村 尚

## ＝協組の動き＝

(2月)  
10日(月) 理事会(No.1232)  
25日(火) 理事会(No.1233)

(3月)  
10日(月) 理事会(No.1234)  
24日(月) 理事会(No.1235)

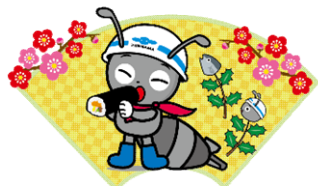
### 共販・経営者セミナー

主催：東京都生コンクリート  
工業組合  
日時：2月21日(金)15時～  
場所：第一ホテル東京(新橋)

### 人事異動

【離任】

日付	部署	氏名
12月31日	経理部	寺崎 真理



今年の節分🍱は2月2日でしたね!

(※2025年1月出荷実績は裏面に)

## 新年賀詞交歓会を開催

未来の生コン業界を見据えた  
施策を宣言

当協組は1月7日(火)に都内のホテルにて登録販売店、セメントメーカー等の関係各社、組合員各社代表の約200名の方々にご出席いただき、新年賀詞交歓会を開催いたしました。

森理事長は年頭挨拶の中で下記の4つの重要施策について説明し、関係者の方々へ理解と協力を要請しました。挨拶の概要は以下のとおりです。



新年明けましておめでとうございます。常日頃より当協組にご理解とご協力をいただいておりますことに厚く御礼申し上げます。

当協組は昨年までに都合3回、合計6,000円/m<sup>3</sup>の値上げをしておりますが、セメントの更なる2,000円/tの値上げ表明、骨材の度重なる値上げ要請、物流費及び人件費の上昇等により我々組合員の自助努力ではカバーできないコストアップとなり、当協組は本年4月より+3,000円/m<sup>3</sup>の価格改定を実施します。これは我々生コン業界が生き残るための数字です。ぜひとも皆様にはご協力をお願いいたします。特に登録販売店の皆様には大変なご負担をおかけすることになるかと思いますが、何卒ご理解の程よろしくをお願いいたします。

一方、出荷について今年度当初は大型工事の本格化を見込んで300万m<sup>3</sup>の需要想定をしておりましたが、工期の長期化、着工の遅れ・見直し、働き方改革による残業の制限、軽量骨材の供給不足、超高強度コンクリート用の硬質砂岩の出荷制限があり、270万m<sup>3</sup>程度となると思われます。来年度においても周辺環境の大きな変化は見込まれないため、当協組における2025年度の出荷想定は270万m<sup>3</sup>と見込んでおります。

このような状況の中で、今年はこの4つを最重要施策とし、取り組んでまいります。

### ①出荷ベース契約の早期定着と適正価格の獲得

2023年度より出荷ベースの契約をお願い

しております。また4月より生コンの定価が25,000円/m<sup>3</sup>となります。出荷ベースの契約と適正価格は生コン業界が未来に向かって継続して事業を営むために必要ですので、協組一丸となって取り組む所存です。

### ②安定供給の確保

4年連続の値上げとなり且つ出荷ベースの契約をお願いするからには、我々は高品質の生コンをしっかりと供給しなければなりません。引き続き運転手の獲得に努めるとともにサプライチェーンとも協力していきたいと思っております。

軽量骨材や硬質砂岩の問題についてはしっかりと情報を収集し、当協組としてできる限りの対応をまいります。

### ③完全週休2日制の導入とスライド改定

生コン業界は高齢化しており若手人材が率先して入社する業界へと変えていくために、まずは週休2日制の実現を第一歩と考えております。

スライド表の改定は30年振りのことです。様々なコストを見直すとともに、現状に即したスライド表にしておりますので、ご理解をお願いいたします。

### ④残コン、戻りコン、出荷キャンセルの削減

残コンの削減を目的として昨年より最後の1台も残コン有償化の対象としましたが、一向に数量が減りません。一方で産廃処理業者からは大幅な値上げ要請の他、受取数量の制限まで求められている状況です。我々は引き続き残コン及び戻りコンの削減を目的として「残コン」「戻りコン」「出荷キャンセル」の各種料金の改定を実施いたします。これにつきましても皆さまのご理解をぜひ頂きたいと思っております。

原材料費の高騰、需要の低迷の中、「量で稼ぐ」という経営手法は大きく変わってきています。生コン業界を次世代に繋げていくためには、セメントメーカー様、登録販売店様をはじめ関係各社の皆様方のご協力をお願いいたします。

新年早々、ゴルフの松山選手のアメリカンアー優勝、俳優の真田広之さんの『SHOGUN』ゴールデン・グローブ賞受賞という明るいニュースが続いております。我々

も是非明るい業界にしていきたいと思っておりますので、皆様の更なるご協力をよろしくお願いいたします。

結びに、ご臨席の皆様方のご健勝とご活躍、関係各社の益々のご隆盛を祈念し新年のご挨拶とさせていただきます。

続いて来賓お二方からご挨拶いただきました。

【セメント協会流通委員長 福嶋 達雄様 (住友大阪セメント(株) 取締役常務執行役員)】



明けましておめでとうございます。東京協組ならびに組合員の皆様には日頃から大変お世話になっておりますことを厚く御礼申し上げます。

今年は穏やかなお正月をお迎えになったと存じます。私は実家の京都に帰省をしましたが、あふれんばかりの人で半数は外国人、初詣もお店も長蛇の列でインバウンド需要を目の当たりにしました。

振り返りますと、生コン・セメント業界は2019年以降5年連続で需要が減退しています。2024年度のセメント出荷は3,500万tを想定しておりましたが、3,300万t前後になると思われます。低調の要因は従来からの建設業界の人手不足や資材価格の高騰に加え、やはり2024年問題が大きく、平日における現場での作業時間の短縮、土曜日休業の影響が出始めており、今後を危惧しているところです。

しかしながら、東京は日本の首都であり日本のどこよりも防災・安全・魅力ある都市づくりが求められている地区です。政府の最重要課題として防災への対応が叫ばれていますが、東京の場合は首都直下型地震をはじめいつ何時災害が起こるかかわらず、整備は急を要しています。また、現在ある全国の都市再開発事業は130あり、その約半数の60地区が東京都内です。その点で東京は他の地域にはないポテンシャルの高さがあると考えられます。

生コンクリートとセメント業界は「車の両輪」と言われます。生コンは国民の命と安全を守る重要なインフラ構造物には欠かせませ

ん。セメント協会ではコンクリート舗装のPRをトップセールスで行っていますし、全生連においてもコンクリート舗装、河川のSC対策、国土の強靱化に向けたアピールをされていると思います。それ以外にもカーボンニュートラル等課題は山積していますが、我々セメント業界とコンクリート業界とが手を取り合いながら一致団結し、防災インフラについても強力で発信していきたいと思っております。

今年の干支である蛇は脱皮を繰り返す生き物です。経済では「再生と復活の年」と言われます。セメント・生コン業界においても再生・復活の第一歩となることを祈念し、新年の御挨拶とさせていただきます。

【東京生コンクリート卸協同組合 理事長 山下 豊様】



明けましておめでとうございます。ご臨席の皆様には日頃より大変お世話になっており厚く御礼申し上げます。

年末にある大手電機メーカーの元役員の方とお話する機会がありました。その電機メーカーは過去に大きな赤字を出し、事業の選択と集中を繰り返した結果、今は超優良企業です。当時は大変ご苦労されたとのことでしたが、生コン業界も従来からの慣習を変えるのが大変という話をしたところ、「大変なときは、その言葉のとおり大きく変わるチャンス」と仰っていました。チームリーダーは次の世代のことを十分に考え橋渡しをする、礎にするという強い決意を持たないといけない。色々と施策を打っても効果が出るのは何年も後のこと。自分たちの時代に目の目を見なくても次の世代のために必死に粘り強く頑張るという覚悟が必要である、とも仰っていました。

東京の生コン業界は大きな変革期にあり、当然の事ながら簡単なことではなく苦労もあります。業界の明るい未来のために、私どもがそれぞれの立場でしっかりとやり遂げる、そして次の世代への橋渡しをする、今年がその礎の年になるのではと思います。

2025年が皆さまと生コン業界にとって明るい未来への飛躍の年になることを祈念いたします。

